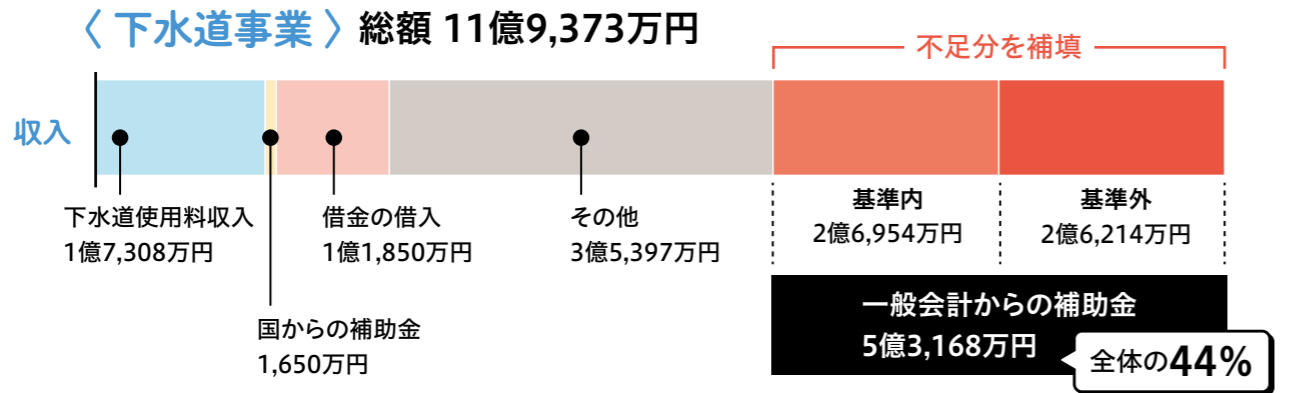
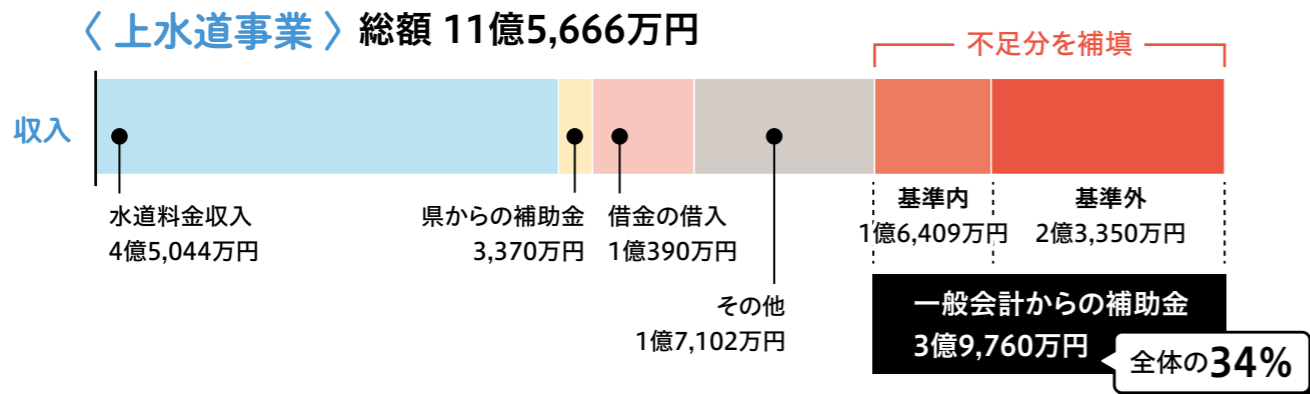


上下水道事業の現状と課題

市民生活に直結する重要なライフラインである上下水道。本市の上下水道事業の運営は、利用者が負担する水道料金・下水道使用料だけでは支出を賄うことができておらず、市一般会計からの補助金に頼った経営が続いています。また、施設の維持管理や更新にかかる費用

は今後増加することが想定されます。一方で、人口減少による水道料金・下水道使用料の減収も見込まれます。そのため、上下水道事業の経営はさらに厳しいものになると予想されます。本市が直面している上下水道事業の現状と課題について解説します。

収入財源で見る上下水道事業(2021年度決算)



※各区分は万円未満の数値を切り捨てているため、合計と少し違いがあります。

■ 基準内繰入金(補助金): 一般会計で負担すべき部分。
 ■ 基準外繰入金(補助金): 本来は一般会計で負担すべきでない部分。

解説

公営企業会計は本来、受益者負担の原則にのっとり可能な限り事業の独立採算性を確保していく必要があります。

しかし、上記のグラフで見るとおり、上下水道事業会計に共通して市一般会計からの補助金に頼った経営になっています。

一般会計からの補助金の中でも、とりわけ基準外繰入金(補助金)が多く投入されていることは、事業の経営上大きな問題です。

一般会計から上下水道事業会計への補助金が増加することで、市財政への負担が大きくなり、市が進めようとする施策や新たな事業の展開、これまで行ってきた行政サービスなどを提供できなくなる恐れがあります。

上下水道事業を運営していく上での課題

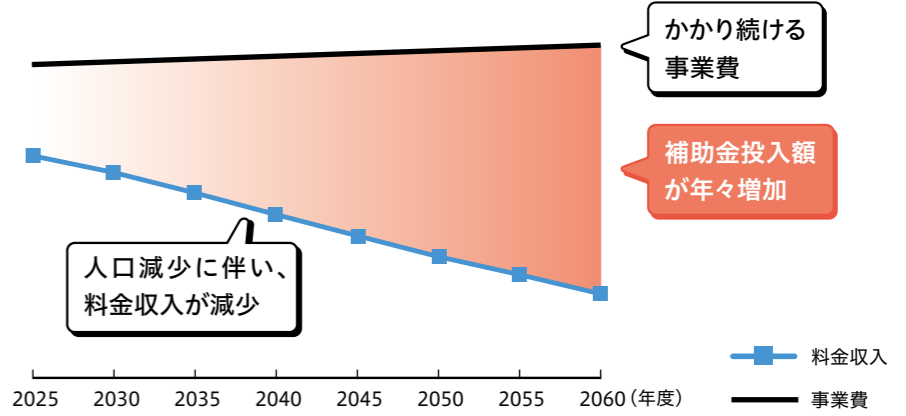
- 維持管理費**
上下水道事業は、合併前の町ごとに計画・整備されたため、施設の数が多くその維持管理に多くの費用が使われています(右表:施設数)。
- 建築改良費**
老朽化した施設などの更新に多くの費用が使われています。今後さらに施設の更新が繰り返されるため、更新・修繕費用が増加することが課題となっています。
- 借金の返済**
合併前に、上下水道施設を整備するために借り入れたお金や、老朽化した施設を更新するために借り入れたお金を返済しています。

市が維持管理する施設

〈上水道事業〉	
管路延長	559km
浄水場	29か所
ポンプ	33か所
配水池	47か所
〈下水道事業〉	
管路延長	274km
処理施設	18か所
マンホールポンプ	211か所



今後、市の人口は減り続け、料金収入も減少していくと考えられます。施設を合理化しなければ多額の事業費もかかり続け、老朽化も進み、さらに多くの補助金を投入せざるを得ない状況になります。



上下水道事業のこれから

本市では上下水道事業の安定的な経営を図るため、**上水道事業では“広島県水道広域連合企業団への参画”**により、2023年度から2062年度までの40年間で78億円の経費削減を見込んでいます。

また、**下水道事業では“市内処理施設統合による再編”**を行い、維持管理にかかる経費を圧縮していく方針です。併せて、**上下水道料金の改定を進めます。**

問上下水道課 水道係 ☎お太助フォン 47-1203
 下水道係 ☎お太助フォン 47-1204